



個人研究主題

適切に選択・判断し生活していく力を養う家庭科教育・2

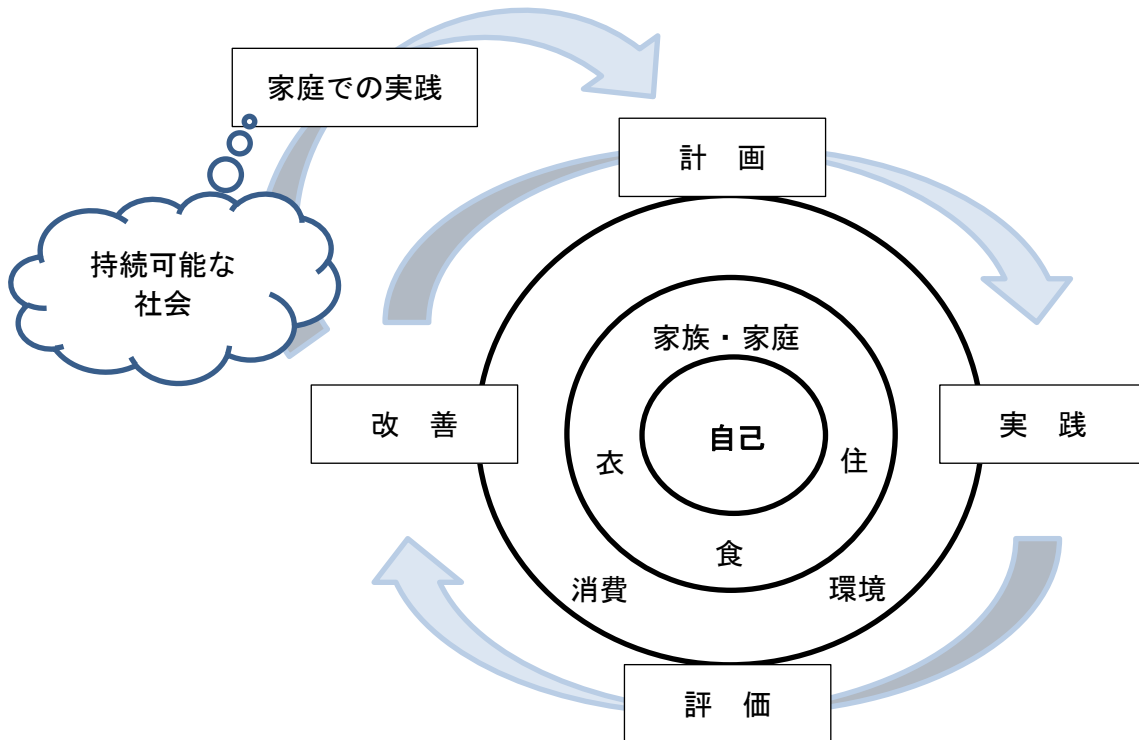
—対話型の学習によりグローバル社会を生き抜くことのできる生徒育成をめざして—  
池田 麻衣

主題設定の理由

昨年度は、「食生活」の導入として「持続可能な食生活をめざして」について授業実践を行った。日本の食生活は日本だけでなく、世界中の食品によって成り立っている。バーチャルウォーターや、フードマイレージを切り口とし、食品を輸入することは環境にどのような影響を及ぼすのか、そして、これからの食生活をどのように送っていくのか生徒自身が自らの行動を振り返りながら進めることができた。アンケート結果からは、一定の成果はあったと考えられるが、答えが用意されている問いの設定を行ったため、生徒自身のこれからの生活へ落とし込みにくいように感じた。

本年度は既習の知識や生活経験を結び付け、概念的理解につながる大題材(単元)を貫く問い、それに向けての小題材の問いそれぞれを効果的に設定し、研究を進めたい。すべての分野を通して、自己を中心とし、日本だけでなく世界に目を向け、自分事としてとらえ、主体的に家庭生活を行える生徒、環境にも配慮した生活を主体的に営むことができるように、選択・判断ができるような生徒の育成を目指したい。

キーワード SDGs, 環境, エシカル消費, サステナブル, 対話的な学び





## 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

令和4(2022)年7月13日(水) 第4校時  
第1学年B組 授業者 教諭 池田 麻衣

### 1. 題材

持続可能な食生活をめざして

### 2. 題材設定の理由

この題材は内容、「B 衣食住の生活」の「(3)日常食の調理と地域の食文化」のAの(A)用途に応じた食品の選択と、「C 消費生活・環境」の「(2)消費者の権利と責任」の「ア 消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響」、「イ 自立した消費者としての消費行動の工夫」との関連を図りながら、またSDGsにも触れ展開する。

題材の始めに、自分や家族の食品の買い物について振り返らせ、「持続可能な社会の構築」の視点から食生活を見直し、自立した消費者になるための消費行動について問題を見だし、持続可能な食生活を送るために食生活で工夫していることは何かについて、自分の考えを深める構成となっている。

生徒たちは、コロナ禍ということもあり、短時間で、一人だけで、不要不急の外出をしないということから、より一層食品などの買い物をする機会が減っている。買い物から調理に至るまで家族に任せ、受け身な食生活や消費行動が多い。しかしながら、中学生の時期は、食べたいものを自ら選択して購入する機会も増えてくる時期でもある。これからは自分で食品を選び購入する、積極的な消費行動が増えると考えられる。

このようなことから、食品ロスや輸入食品が自然環境に与える影響を知り、知ったうえで自らの生活環境にあった食品の選択ができるようにしたい。見た目や値段だけでなく、持続可能な社会の構築に目を向け、環境に配慮しながら食品の選択をし、食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度や能力を育成したいと考える。

### 3. 題材の学習目標

食品を購入するというものの環境や社会に及ぼす影響についての理解を深め、日常よく用いられている食品の品質を外観や表示から見分けることができるようにするとともに、日常生活と関連付け、用途に応じて適切に選択できるようにする。

### 4. 題材の評価規準

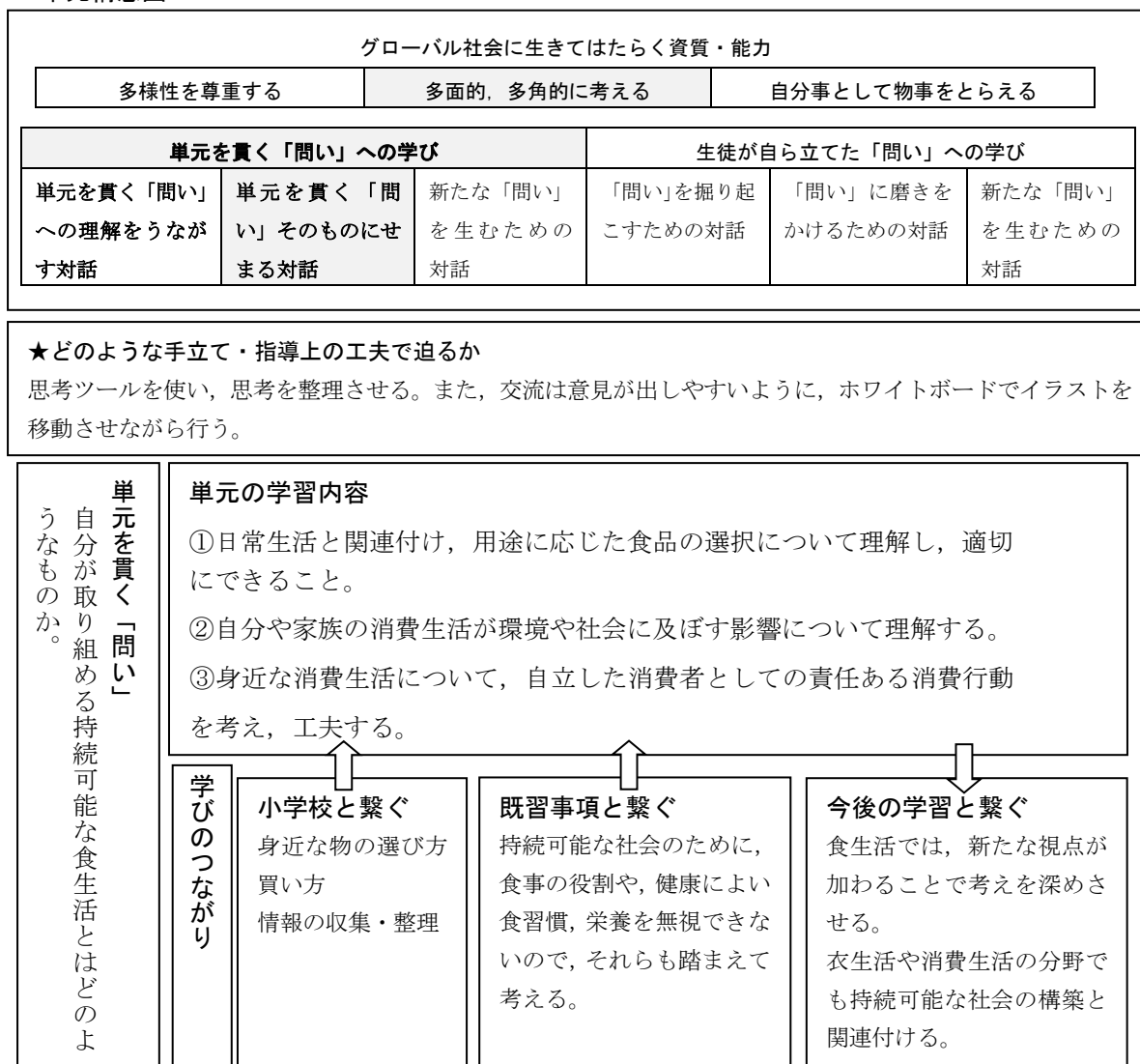
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。	②持続可能な食生活について問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	③よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。



5. 題材の学習計画（全2時間）

時程	学習活動	評価の観点		
		知	思	主
第1時	食品の安全と情報	◎		◎
第2時	持続可能な食生活をめざして（本時）		◎	◎

6 単元構想図



7. 本時の目標および探究的学習活動の見どころ

- ①食品を購入するというものの環境や社会に及ぼす影響についての理解を深め、日常よく用いられている食品の品質を外観や表示から見分けることができるようにするとともに、日常生活と関連付け、用途に応じて適切に選択できるようにする。

☆探究的学習活動の見どころ

探究的学習活動	A 課題を設定	B 情報収集	C 整理と分析	D 発表と交流	E まとめ	F 新たな課題
---------	---------	--------	---------	---------	-------	---------



### 8. 本時の学習過程

	学習内容・活動	○指導と◆評価 ★対話型の学習の効果を求める場面
導入	1. 前時に学習した内容を確認をする。 2. 学習課題を知る。	○フードマイレージについて確認する。
	<b>学習課題</b> 環境に負荷をかけない食生活とは、どのようなものか。	
展開	3. 食料自給率について知る。 4. ワークシートの数字について何の量なのか考え、食品ロスについて知る。 5. 食品ロスと食糧援助量を比較し、感じたことを発表し、自然環境に与える影響について知る。 6. バーチャルウォーターを知り、3つの料理をランキングし、バーチャルウォーターを押し上げている食材を予想する。 7. 輸入するということはどういうことかを考え、ワークシートに記入する。 8. 学習してきたことを踏まえ、環境に負荷をかけない食生活について考える。個人で考えた後、グループで交流する。	○日本の現状を知り、なぜ食料自給率が低いのか考えさせる。 ○食品ロスについて説明する。世界の食品ロスの量を伝えて、日本だけの問題ではないことを理解させる。 ○意見をワークシートにまとめさせる。SDGsとの関連を伝える。 ○班で取り組ませる。 ○バーチャルウォーターは環境省の仮想水計算機を参考にさせる。 ★グループで意見を出しやすいようにホワイトボードを用いて交流させ、バーチャルウォーターについて理解を深めさせる。 ◆ <b>規準②</b> 持続可能な食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ○食品ロスやフードマイレージ、バーチャルウォーターを学習し、分かったことも踏まえて記入させる。 ○環境に負荷をかけない食生活について、生徒から提案するという形で考えさせる。 ★交流することで、生徒それぞれの着眼点や価値観を知り、自分自身ができるようなことが他にもあることを理解させる。 ◆ <b>規準③</b> よりよい生活の実現に向けて、日常食の調理と地域の食文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
まとめ	9. 本時の振り返りをする。	○前時の始めにも聞いた持続可能な食生活とは何かを書かせる。 ○持続可能な食生活を送るために食生活で工夫できることをワークシートに記入させる。

### 9. その他 資料, 評価ルーブリック, 授業ワークシートなど